

肺がんで治療を受けられた患者さんへ

放射線医学総合研究所では、肺がんに対する重粒子線治療を受けられた患者さんに関する治療関連データと、肺がんの画像を解析して、画像から治療の有効性や有害事象のリスクを事前に予想することが可能かを検討する研究を行っています。肺がんの画像を細かく解析して、治療の効果や副作用について治療前に予想できる可能性があります。研究には特殊な画像処理計算や機械学習といったビッグデータ解析で用いられる計算が必要で、これらの計算処理は東京大学医学部附属病院放射線科との共同研究として行われます。

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております（「重粒子線治療についての説明は、本データ収集研究とは別に詳しく行います）。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] 肺癌に対する重粒子線治療の画像特徴量を用いた予後推定モデルの有効性評価研究

(実施期間：2017年10月4日～2019年3月31日)

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所臨床研究クラスタ

[研究責任者] 野元 昭弘

[協力/共同研究機関] 東京大学医学部附属病院放射線科放射線治療部門

(これら外部機関に個人を識別できる情報が提供されることはありません。)

[研究の目的] 肺癌のRadiomics画像特徴量と腫瘍の背景因子、重粒子線治療の治療成績、生存率、有害事象を統計的に解析し、画像特徴量が治療方針決定や予後予測に有用か否かを明らかにする。

[研究の方法・データの利用方法]

- 対象となる方々 1994年11月～2017年8月4日までに、当院で原発性肺がんに対して、重粒子線治療を完遂した方
- 利用する情報及び利用方法

患者基本情報（照射開始時年齢、性別など）、病歴（全身状態PS、重複がん情報、既往歴など）、生活習慣（喫煙、飲酒など）、疾患情報（病名、組織型、腫瘍サイズ、病期（UICC TNM 分類）など）、治療情報（照射方法、標的体積、標的線量/分割/治療期間、治療開始日、関連危険臓器の線量体積ヒストグラム(DVH)など）、治療結果（放射線治療完遂度、治療効果など）、予後情報（生存・死亡情報、有害事象情報、死因など）

2019年3月までに得られたデータを情報取扱いの安全管理された電子システムにより集計します。

[個人情報の取り扱い]

外部と共有される研究データからは、お名前、ご住所、そのほかの個人を識別できる情報は削除します。また、研究成果は、解析した全体の数字として学会や学術雑誌で発表されますが、その際に個人名などが明らかにされることはありません（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。）。

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（又は代理人の方）は、2017年11月30日までに下記窓口にお申し出くださいようお願い致します（この期間を過ぎると個人識別できない情報は取り除けなくなることがあります）。ご自分のデータの使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。

[問い合わせ先：窓口] 千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所

病院 担当者 野元 昭弘 電話：043-206-3306（平日9:00～17:00）

